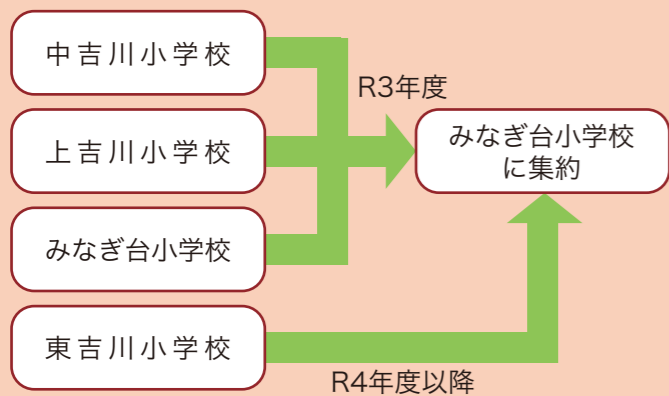
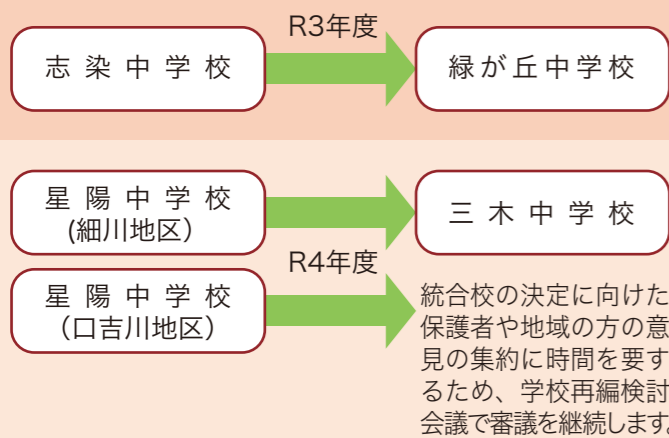


喫緊の課題校の統合・時期



喫緊の課題校の統合

児童生徒数の減少が著しく、教育活動に制限が生じている喫緊の課題校の統合については、これまでの保護者や地域の方との意見交換会、学校再編検討会議での意見聴取などの内容を踏まえ、左図のとおりとします。今後、統合する学校については、保護者や地域、学校、教育委員会で組織する「統合準備委員会」で協議し、円滑な統合に向けて準備を進めます。

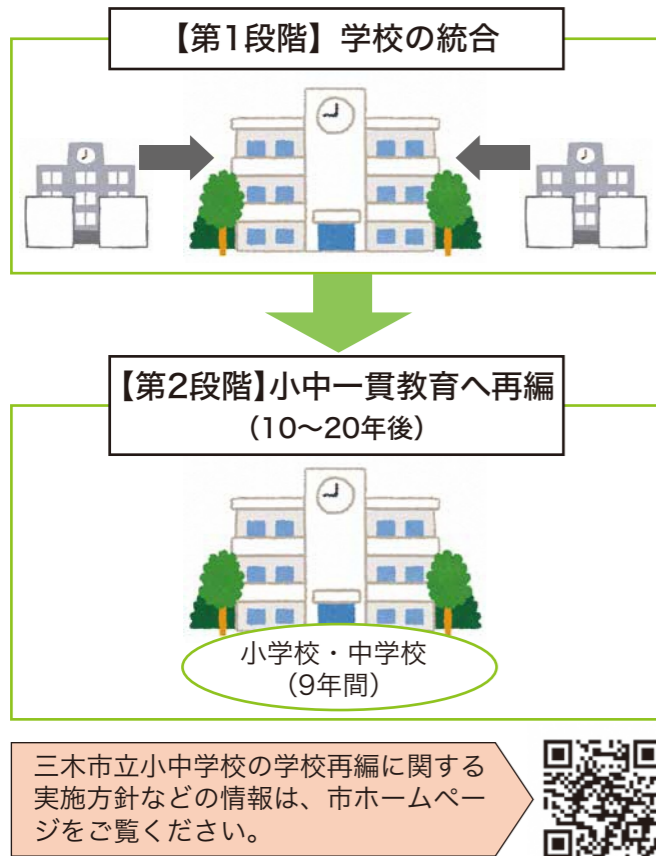
統合準備委員会の組織



未来を生き抜く力を育むために ～学校再編の実施方針を策定～

問(市)学校教育課 学校再編担当

小中一貫教育の導入イメージ



小中一貫教育の導入

小中一貫教育は、「めざす子ども姿」を小学校と中学校の9年間を見通して共有し、小学校段階と中学校段階を一貫して行う教育です。全国の小中一貫教育の先進事例を見ると、学力保障の面では、9年間の繋がりを見通して教科指導を充実させることで、学力や学習意欲が向上するなどの成果が報告されています。また、心の成長の面では、多様な異学年交流が生ま

れ、社会性やリーダーシップなど、児童生徒の豊かな人間性を育むことができることも報告されています。三木市では、小中一貫教育を行う上で適しているとされる、各学年が2～3学級程度の規模となる小中一貫教育への再編をめざします。今後、これまで推進してきた小中連携教育の実践を基に、9年間の繋がりを大切にした施設一体型の小中一貫教育の導入に向け、さらなる研究を進めていきます。

過

去10年間で三木市内の小学校の児童数は約800人(平成22年度比17・8%)、中学校の生徒数は約400人(平成22年度比16・9%)減少しています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所によると、三木市の児童生徒数は約30年後には半数以下になると予測されており、子どもの減少に対応した学びの環境を整備していく必要があります。

市教育委員会では、これからの子どもへの人口減少を見据えるとともに、今後予想される変化の激しい社会にあっても、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する力」を育むため、学校の再編について検討を重ねてきました。

8月には、学校再編検討会議からの提言書を受け、総合教育会議で協議。そして、10月3日に市教育委員会において「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針」を策定しました。

今月号では、この実施方針の中から、喫緊の課題校の統合や将来的な小中一貫教育の導入について紹介します。

